

2015
(平成 27 年)

Miyakojima City
Public Relations 広報

4

No. 115

みやこじま

ていだ
海、風、太陽
熱き想い
君を待つ



宮古島市市制施行10周年記念事業

第31回全日本トライアスロン宮古島大会



STRONGMAN®

2015.4.19 SUN
START 7:00~FINISH 20:30

3km	SWIM	7:00 ~ 8:50	宮古島市下地字と那覇前浜
157km	BIKE	~15:20	宮古島市下地字と那覇前浜 ~宮古島市陸上競技場
42.195km	RUN	~20:30	宮古島市陸上競技場付帯 公設マラソンコース



宮古島市イメージキャラクター
「みーや」



今月の主な内容

- 平成 27 年度 施政方針・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- 4 月から生活困窮者の支援制度が始まります・・・・・・・・ P13
- 児童家庭課より～各種手当の支給額が変わります～・・・・ P14
- 宮古島市農地賃貸借料情報について・・・・・・・・ P15



施政方針

～地域資源を活かした島づくりの推進～

平成
27年度

はじめに

平成27年第2回宮古島市市議会の開会にあたり、市政運営についての私の基本的な考え方と主要な施策の概要をご説明し、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

宮古島市は、平成17年10月1日、合併し、今年で10年の節目を迎えます。

この間、5つの市町村が育んできた風土や伝統、振興策を「このころつなぐ結いの島 宮古(みやこ)」の理念の下、一体的な行政サービスの構築と各種施策を推進し、新たな宮古島市の基盤づくりに取り組んでまいりました。

私も市民の皆様の負託に応えるべく、市長として6年間、地域の均衡ある発展を目指し、行政運営に努めてまいりました。

◎3月議会で、下地市長が述べた平成27年度「施政方針」を紹介します◎

その結果、生活基盤の整備や産業の振興、住民福祉の向上、教育・文化の充実など様々な面で成果を上げることが出来ました。また、多くのイベントを通して市民相互の一体感が生まれ、「心をひとつにして新たに誕生する市で振興と発展に取り組む」という、市町村合併が目指した姿に近づきつつあると考えています。

が多く発生する一方で、ノーベル物理学賞の日本人科学者3人の受賞など明るい話題もありました。また、政府においては、景気回復を全国津々浦々で実感できるようになることを目指し、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、市町村にも地方版の創生総合戦略の策定を求めているところです。

とうきびの年内操業が実施され、農地の有効活用による農家所得の向上が期待されます。

観光振興については、国内外からのチャーター便の増加、誘客活動の強化等によって入域観光客が大幅に増加する見込みです。しかしながら「スカイマーク株式会社」の運航休止という懸念材料も有ることから、その影響を極力抑えるよう航空会社への要請活動を進めてまいります。

また、今年は、戦後70年の節目の年となります。遺族会の皆様の高齢化に伴い、各地域で開催して来た慰霊祭の継続が危ぶまれていることから、遺族会と市で合同の慰霊祭を開催し、今日の平和な社会を築くために犠牲となられた御霊を慰め、平和の尊さについて、市民全体で考える機会にしたいと思います。

それでは、市政運営にあたっての基本的な考え方を申し上げます。

第一章 市政運営にあたっての基本的な考え方

① 市制施行10周年の検証と更なる振興への取り組み

平成17年10月1日に平良市、城辺町、伊良部町、下地町、上野村の5つの市町村が合併し「宮古島市」が誕生しました。合併直後の市の財政は、厳しい状況にありましたが、行財政改革により財政は立て直すことが出来、今、島嶼型のエコアイランド社会を目指した独自の取り組みを進めています。

また、市民の生活基盤を整える道路網やコミュニティ施設、新葬斎場、し尿等下水搬入施設や上下水道の整備等を行ってきました。

そのほか、北幼稚園や鏡原小学校、平良中学校等多くの教育施設の整備を行うとともに、学校規模適正化を推進し、教育環境の充実に取り組んでまいりました。

農業については、農地の基盤やかんがい排水施設の整備等を推進し、生産基盤の強化に努めるとともに、熱帯果樹等の施設導入を支援しました。また、付加価値の高い園芸作物の生産普及により、生産性の向上と経営の安定化に取り組んでまいりました。

水産業については、漁協の製氷

施設の整備や生産物の加工施設の整備を進めるとともに、生鮮水産物の輸送費の助成を行い、魚価の安定に取り組んでまいりました。

観光産業については、「スカイマーク株式会社」の宮古路線参入やこれまでの積極的な誘客活動が功を奏し、観光入域客40万人を達成することが出来ました。

今後は、圏域住民の永年の夢であった伊良部大橋が開通したことを契機として、希望にあふれる宮古島の新たな時代にしていきたいと思えます。そのため、5年間利用期間が延長される合併特例債や、沖縄振興特別推進交付金を有効に活用し、戦略的な施策の実施に取り組んでまいります。特に、伊良部地区については、農水産業、観光産業を中心に生産基盤等の整備を進めます。また、下地島空港と周辺用地の活用については、宮古圏域の振興発展にとって重要な資源であり、県と連携し、市としても積極的に取り組んでまいります。

併せて、スポーツ観光交流拠点施設、健康保健センター及び未来創造センター等についても着実に整備を進めるとともに、今後の振興の基本的方針や具体的な施策を盛り込んだ「宮古島市まち、ひと、しごと創生総合戦略」の策定に取り組みます。

② 緑豊かで花のあふれる島づくり

緑豊かで花に彩られた環境は、人々の生活に潤いと癒やしを与えるとともに、観光客など宮古島を訪れる全ての人に安らぎを与え、花と緑の島を印象づけることにより新たな観光資源としての活用も期待できます。

そのため、花木の育苗施設を充実し、学校及び各種団体等といっしょに花いっぱい運動を展開し、公園、道路等の緑化及び美化に努めます。

また、美しい環境を取り戻すため、撤去困難となっていた平安名崎崖下などの3カ所の不法投棄ごみの撤去を進め、県内ファーストワンという不名誉を解消するとともに、平成28年4月の供用開始の新ごみ処理施設の建設と併せて、リサイクルセンターの整備を進め、清潔な環境づくりに取り組んでまいります。

③ 子育て支援による定住促進と生きがいのある高齢者対策

宮古島の活力と成長力を維持・発展させるためには、若者の定住促進と高齢者の活力を活用した、いわゆるエイジレスの活動を充実させることが必要です。

そのため、子育て支援については、「子ども、子育て支援新制度」に基づき、待機児童0(ゼロ)を目指し、保育所と幼稚園が連携した預かり保育体制の整備を進め、同時に保育料

の負担軽減を図るなど、安心して妊娠、出産、子育てができる生活環境の充実に取り組んでまいります。

また、豊富な知識と豊かな体験を有する高齢者が、社会との関わりを持ち続け楽しく過ごすことが、地域の活力を生むことから、生涯学習の一環として、高齢者の交流の場を提供するとともに活動しやすい居住環境の整備に取り組む、高齢者が生きがいを見出し、楽しく元気に過ごせる環境の創出に取り組みます。

④ 環境に配慮した島嶼型エコアイランド社会の推進

本市は、美しい自然環境と地下水など限りある資源を次世代へ守り伝えるためエコアイランド宮古島を宣言し、「環境モデル都市」の指定を受け、島全体で様々な実証事業とその事業化に取り組んでいます。

引き続き、低炭素社会の実現に向けた実証事業を進めるとともに、新たに、地中熱利用システムの実証事業とその展示を行い、体感できる仕組みづくりに取り組めます。

また、エコアイランド宮古島の推進に関する条例に基づき、「エコアイランド推進計画」を認定し、国内外へエコの島としての発信をするとともに、エコアイランドPR館の利用を促進します。

また、飲料水としての地下水の保全には、細心の注意を払い、地下

水保全条例等に基づいた水質管理の強化に努めるとともに、水源涵養林の計画的な造成を進めます。併せて、減農薬による農業を推進します。

第二章 重点施策

① 地域資源を活用した観光産業と農林水産業の振興

観光産業については、宮古圏域の経済振興を牽引するリーディング産業として入域観光客数50万人という目標達成に向け、取り組みを強化します。

そのため、伊良部大橋という新たな観光資源を活用し、伊良部地域の観光振興活性化に向けた伊良部地域観光地整備総合計画を策定します。

また、従来開催してきたスポーツイベント等に加え、カギマナフランダース全国大会と併せて伊良部大橋全体でフランダースを踊り、ギネスに挑戦する等、新たなイベントを実施します。さらに、旅行関連会社等を対象とした観光感謝祭や閑散期における韓国ゴルフツアー、島内事業者と連携した魅力ある観光メニューの創出等、観光客の誘致拡大に取り組みます。

そのほか、友好都市締結10周年を迎える西会津町や世田谷区、姉妹都市縁組み50周年を迎えるハワイマウ

イ郡と更に絆を深めるため、交流を促進します。

また、円安を背景に海外からの旅行者が増加する傾向にあるため、県や沖縄観光コンベンションビューローと連携してアジアをターゲットとした宣伝活動を推進し、チャーター便の就航やクルーズ船の寄港による誘客促進を図るとともに、宮古空港の受け入れ体制の整備と地元での人材育成に取り組みでまいります。

ラムサール条約で登録された与那覇湾については、与那覇湾環境総合整備計画に基づき、利活用施設を計画的に整備し、グリーンツーリズムなどの観光資源として活用します。

農業については、農産物の生産拡大と経営の安定化を促進するため、継続して農業生産基盤及び畑地かんがい施設整備事業を進めま

す。特に、伊良部地域については、伊良部大橋の完成により宮古島の地下ダムからの送水が可能となることから、国営かんがい排水事業「宮古伊良部地区」の工事が本格化致します。併せて、下地島の農業ゾーンを含めた農地の基盤整備を推進し、伊良部地域の農業発展の基盤づくりに取り組んでまいります。そのほか、平良地域のスナ地区、

伊良部地域の横嶺地区、下地地域の入江東地区、城辺地域の山田地区など9地区で区画整理及び畑地かんがい整備事業を実施し、同時にスナ地区、入江東地区など6地区で不発弾事前探査事業を実施します。併せて、

下地地域の内原北地区他5地区で団体営農地保全整備事業を継続し、農地の浸食防止対策を行うとともに、防風林帯施設を整備し、塩害や風害による農作物の被害の防止を図り、生産性の向上と安定経営を推進します。

基幹作目である「さとうきび」については、農家の高齢化に伴う労働力不足が大きな課題であることから、新たに、特定地域経営支援事業によるハーベスター等の導入を促進し、省力化と労働力不足の解消に取り組みでまいります。併せて、農作業の受委託を含めた複合経営の担い手となる法人経営体の育成に取り組み、農作業の効率化を促進します。

また、ハリガネムシやイネコトウなど病害虫の防除や緑肥・有機質肥料及び緩行性肥料による土作りを推進するとともに、拡大傾向にある株出し栽培の反収と品質向上を目指し、株出し管理機及びプラソイラによる深耕等作業の普及を図り、さとうきびの増産に取り組めます。

園芸作物については、引き続き高品質かつ安全で安心な園芸作物としての拠点産地の形成を目指し、新し

の通いの場づくりを進めます。

また、高齢者を対象にした肺炎球菌ワクチンやインフルエンザワクチン接種費用に対し、助成を行い、発病と重症化の予防、負担軽減に努めます。

休日・夜間救急診療所については、県立宮古病院と連携し、円滑な医療体制の向上に努めてまいります。また、救急救命士の育成と確保を推進し、高度な救急体制の構築に取り組みとともに、市民を対象にAEDを使用した応急処置の普及、啓発を行うことよって社会全体での緊急時の対処力の向上に努めます。

「健康保健センター」については、建設実施に向けて、引き続き取り組んでいます。

③ 生きる力を育む教育の充実と歴史・文化・交流の振興

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、教育委員会制度が大きく変わります。現行の教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」の設置、総合教育会議の設置、首長による教育に関する大綱の策定などが主な改正点となっています。今回の教育改革を受けて、さらに教育委員会との連携を密にし、子ども達に生きる力を育み、創造性・国際性のある豊かな人材育成に努めます。

栽培技術の確立及び再生可能エネルギーを利用した新しい産業の創出に向けて、ポットファーム実証栽培の取り組みを行う他、園芸施設の整備の助成を行います。

マンゴーについては、生産量が大幅に伸びる一方で、品質のバラツキが見られることから、糖度計を活用し、高品質の選別化を進めるとともに、恒例となっているマンゴーまつりを開催し、宮古産マンゴーのブランド化に努めてまいります。

宮古産紫いもについては、安定供給を推進するため、出荷体制を整えるとともに、六次産業化に向けた、一次、二次加工の技術開発と流通販売ルートの拡大による、消費拡大と観光おみやげ品の開発を促進します。

畜産については、第41回沖縄県畜産共進会が宮古島で開催されることから、農家や関係団体と連携しながら、宮古の出品牛の上位入賞を目指します。

また、優良素牛の導入支援と併せて、飼育・衛生管理の徹底による、保育・育成期の事故率低減のため、農業機械を整備する団体への支援を行います。

農家の高齢化と後継者不足は、大きな課題であることから、各種の融資制度や新規就農者の支援制度の活用を促すとともに、ポットファーム等の新しい技術を導入し、就業機

校教育については、小学校は、全国学力学習状況調査によると全国水準まで学力が向上し、国語Bと算数Aにおいては、全国平均を上回る結果となっています。また、中学校においても全国平均との差を縮める結果となっております。

今年度もより高い目標をかげ、確かな学力の定着を目指し、総合学習への支援、各種検定料への助成を行います。

また、市独自で基礎・基本の学習内容を中心とした児童・生徒の学習到達度を確かめ、今後の指導改善に役立てる、標準学力調査を実施します。さらに、教育に関する専門的・技術的事項の研究及び教職員の研修を推進し、教職員の指導力の向上に努めます。

教育環境の整備については、新たに狩俣小学校屋内運動場の改築工事を実施することにも、幼稚園・小学校・中学校施設などの危険箇所の修繕工事を行います。伊良部地域から要望のある小中一貫校については、引き続き建設に向けて準備を進めてまいります。また、昨年度、下地・鏡原幼稚園を実証モデル園として実施した預かり保育については、「子ども子育て支援新制度」のスタートを受け、今年度からは、市立幼稚園の全園児を対象に実施し、多子世帯や低所得者を対象に保育料の軽減措置を拡充します。

会の創出と雇用拡大に努めてまいります。

水産業については、生鮮水産物の輸送費を助成する生鮮水産物流通不利性解消事業を継続して実施することにも、漁業者自らが取り組む漁場整備や新規漁業・養殖業などの活動を支援し、従事者の育成、新規着業を促します。

また、アース、クルマエビ、モズク等のブランド化による販路拡大に努めます。

また、老朽化の進む伊良部漁協の荷捌き施設を解体撤去し、施設の建て替えに取り組むとともに、3漁協の統合に向けての取り組みと併せて漁協の体質強化を図ります。

② 安心・ゆとり子育て支援と健康長寿の推進

「宮古島子ども子育て支援事業計画」に基づき教育委員会と福祉部が連携し、総合的かつ計画的な支援を実施します。

保育については、認可外保育施設の認可化を促進し、併せて、保育施設を増設による保育所の定員数拡充を図り、待機児童の解消に努めます。また、保育所運営費を助成し、保育環境の質の向上に努めます。

さらに、本市が独自で取り組んでいる保育料多子軽減事業についての継続実施と出産祝い金の支給による保護者の経済的負担の軽減を図ってまいります。

さらに、幼児教育の充実と小学校への円滑な接続を推進するために、公立幼稚園にアドバイザーを引き続き配置します。

市民の生涯学習の拠点となる公民館については、住民の学習ニーズに対応した教育講座や文化交流講座、健康講座などを開催します。また、青少年情操教育の一つとして新潟県上越市の板倉地区や岐阜県白川町との交流事業を実施します。

文化ホールについては、自主文化事業や子ども劇団の育成、提携公演などの拡充を図ります。さらに、高度な舞台芸術を市民に提供できるようデジタル音響システムの改修を行い、市民の多様な文化活動を支援してまいります。

総合博物館については、合併10周年記念事業として、市民が博物館に親しんでもらう初めての試みとして「ナイトミュージアム・夜の博物館探検」事業を実施します。

未来創造センターについては、予定地である旧県立宮古病院跡地の取得に向け、国と協議を進めてまいります。

文化財については、国指定の重要文化財「豊(とう)見(ゆみ)親(や)墓(はか)」の内、あとんま墓と知(ち)利(り)真(ま)良(ら)豊見親の墓の保存修理を行うほか、「アラフ遺跡」や「忠(ちゆつ)導(ぶつ)氏(うじ)(仲宗根家)なかぞねけ)」につい

て学術調査を進めます。

また、国指定名勝及び天然記念物となつている「八重(や)千(ひ)瀬(し)の適切な保存のための「八重(や)千(ひ)瀬(し)保存管理計画」を策定します。

さらに、「宮古島らしさ」にふれられる文化財を中心とした伝説と民話に彩られたロマンあふれる散策コースを整備し、新たな観光資源として活用する取り組みを推進します。

そのほか戦後70年の節目にあたることから、戦跡コースの案内表示を整備するとともに、映像資料などを公開し、児童・生徒の平和学習の場及び観光客への紹介の場として活用します。

④ 圏域の一体感を推進する交通基盤の整備と住みよい居住環境の整備

伊良部大橋開通に伴い、人・物の流れが大きく変化することから、伊良部地域を含めた市全体の路線網の再整備を推進し、圏域全体の利便性の向上に努めます。

また、車両・歩行者の利便性と安全性の向上を図るため、添道1号線、清掃センターから第二沖縄電力までのA・76号線など6路線の道路改良事業を実施します。通学通勤路における、歩行者の安全性を高めるため、松原1号線を新規路線として整備を

行うほか、伊良部111号線のなかよね橋の補修工事を継続して行います。

また、市街地の幹線道路となつている大道線・他1路線を整備し、市街地北部と人頭税石前から盛加越公園へ続く街路事業を実施し、荷川取線の事業化に向け、積極的に取り組んでまいります。

さらに、道路ストック総点検により、既存市道の構造などの劣化、損傷を確認し、計画的に修繕を行うとともに、市道の危険箇所にかーブミラー、ガードレールなどを設置し交通安全を推進します。

また、ライフラインの強化対策として上野海岸線、新里21号線の道路改良工事と併せて無電柱化事業を行います。

台風や地震・津波などに備え、安心して安全な住み良い居住環境を創出するため、与那覇地区、伊良部地区に続いて、池間地区に防災センターを整備し、地域住民の避難場所を確保することにも、市民の防災意識の高揚に努めます。

平良港漲水地区については、平成29年度の供用開始を目指し、国等関係機関と連携し取り組んで行きます。

(仮称)県立宮古広域公園については、二地区を予定しており、海と海辺を活かした下地前浜地区は決定しましたが、防災拠点地区は、調整

を行っているところです。早期事業化等に向け、県に対し、積極的に要請してまいります。

竹原地区の区画整理については、住宅スプロール化の防止及び良好な住宅環境の市街地形成と道路の整備等を行います。

公営住宅については、城辺西城市営住宅2棟の建て替え事業を実施するほか、新たに、住宅リフォーム支援事業による住宅の改修・補修等のリフォーム費を助成し、住み良い居住環境の整備を促進します。

また、パynaガマ・カママ嶺・大嶽城址などの公園については、市民や観光客が安心・安全に利用できるよう施設のバリアフリー化を進めてまいります。

⑤ 市民と行政の協働による地域の活性化の推進

市全域の均衡ある発展を図るためには、行政と市民が連携し、協力して地域の活性化に取り組んでいくことが必要です。

そのため、各地区の地域づくり協議会の活動を支援する助成金を交付し、地域住民と行政の協働による地域づくりに取り組んでまいります。平良地区の地域づくりは、活動組織が多岐にわたることから公募により実施します。

また、地域住民の活動の拠点となつている自治公民館等の建て替え

等を支援するため、新たに、定額の助成制度を創設します。併せて、拠点施設の備品等の購入支援を行い、その有効活用による地域づくりの活性化を促進します。

そのうち、狩俣地区については、地域活性化モデル地区支援事業を継続実施し、その活動を支援します。

また、犯罪・事故のない安心・安全な街づくりに向け、防犯協会等の協力を得て、防犯体制を強化するとともに、夜間の市民生活の安全を確保するため、防犯灯の設置を推進します。さらに、水難事故については、その発生を未然に防止するため、「宮古島市水難事故防止推進協議会」の活動を強化し、危険箇所のパトロール、浮き輪等の救助用具の設置をするほか啓発活動に努めます。

交通安全については、交通事故ゼロの達成に向け関係機関と連携し、飲酒運転の根絶など、継続的な交通安全運動を強力に展開して行きます。

男女共同参画社会への市民の理解を深める、男女平等観を育てる教育・学習機会の提供に取り組み、男性の家事、育児、介護などへの参加を促進し、女性の社会参画の拡大を図ります。

⑥ 地下水保全活動の推進

地下水の保全については、第3次地下水利用基本計画に基づき、地下

水の適正利用と保全を図ります。また、市全域の地下水水質モニタリングを継続実施することにも、地下水採取許可制度を通して地下水利用者に対し、適正な地下水の採取と排水処理の指導を行います。

また、公共下水道については、幹線、枝線工事を実施し、その利用促進を図るとともに、農業集落排水処理施設等の機能向上と長寿命化に向けて、改築及び改修工事を実施し、快適な生活環境の維持と地下水の水質保全に努めます。

併せて、森林環境保全直接支援事業等により、植林と育林に取り組み、流域における水源涵養機能を強化します。

⑦ 行財政計画の推進について

財政については、平成28年度から地方交付税は、段階的に引き下げられ、一方、社会保障費は、年々増加する見通しです。そのため、財政運営は、さらに厳しくなるものと予測されることから、各種基金の積み増しを行うとともに、公共施設等総合管理計画を策定し、施設の統廃合、更新による維持管理費の縮減を図り、財政の健全化に努めます。

また、自主財源の柱である市税の徴収率の向上及び滞納整理に取り組み、自主財源の確保に努めます。

行政組織については、福祉部に於いて、介護保険を含む高齢者の生活

全般の支援業務を強化するため、「介護長寿課」を「高齢者支援課」に改めます。また、「賦課徴収係」は「介護保険料係」に、「在宅福祉係」は「生活支援係」に改めます。

そのほか、「包括支援センター」は業務(運営)を民間に委託するため廃止し、「介護予防係」は介護保険法の改正に伴う事業に対応するため、新設します。

また、生活福祉課には、新たに、生活自立相談支援センターを開設し、生活困窮者に対する自立相談支援事業の実施や住宅確保給付金の支給により、自立支援策の強化を図ってまいります。

伊良部支所については、大橋開通したばかりであることから、当分の間、部長級の支所長としますが、各部の出張所的な役割の「伊良部室」等は、廃止し、組織の効率化を図ってまいります。

公僕として職員の資質の向上を図るため、より充実した職員研修を実施することにも、県が実施している実務研修に積極的に派遣して参ります。

おわりに

宮古島市誕生から10年を迎える今年、夢の大橋と言われた伊良部大橋が開通し、これにより、名実ともに宮古島市は、ひとつになりました。

これらのリーダーシッププロジェクトの推進と沖縄振興特別推進交付金の戦略的な活用により、宮古島市の新たな発展に向けて社会基盤の整備を推進したいと考えています。宮古島市の新たな発展と振興に向け、市民の皆様方とともに「豊かで安心して暮らせる島、若者が希望の持てる島づくり」に全力で取り組んでまいります。

最後になりますが、市民の皆様、そして市議会議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます、私の施政方針とします。

平成27年3月2日

宮古島市長 下地敏彦